

資 料

2 鎌倉市の地域特性

(1) 鎌倉市の概況

鎌倉市は、39.6平方キロメートルの面積に約17万人弱の市民が生活しており、他都市と比較して年少・生産年齢人口の割合が低く、老年人口の割合が高いことが特徴となっており、この傾向は年々進行しています。このことが昼夜間人口にも表れており、昼夜において市内へ流入、市外へ流出する者の差が年々小さくなるとともに、総数自体が減少傾向にあり、生産年齢人口を中心とした市全体の動きが鈍くなってきている状況にあります。

また、鎌倉市は、鎌倉幕府開府の地として貴重な文化的遺産と、7kmに及ぶ海岸線を有し、多くの人が訪れる観光地ともなっています。こうした多面性を持った鎌倉市では、市民生活の向上と自然環境の保全を両立させながら、住宅、交通、教育、福祉、防犯・防災問題等への取り組みを進めています。

(2) 人口・世帯の状況

人口は、平成10年までの減少後に持ち直し、横ばい傾向になっていましたが、平成15年は増加しています。(表1「人口と世帯の推移」参照)

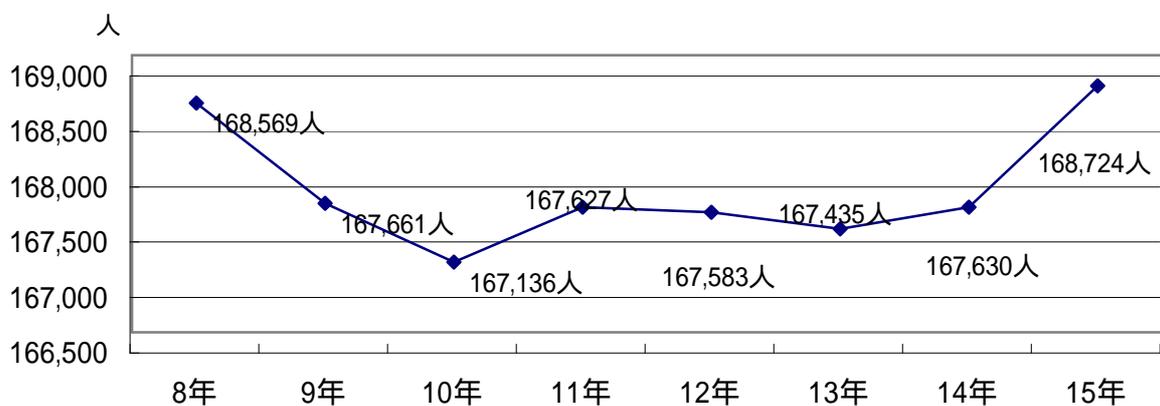
世帯数は、連続して増加し、1世帯当りの平均人員は連続して減少するなかで核家族化が進行しています。

表1 人口と世帯の推移(各年10月1日現在)

平成	総人口 (人)	増減数 (人)	対前年 増減率(%)	世帯数	1世帯当り 平均人員(人)
8年	168,569	1,760	-1.04	63,154	2.67
9年	167,661	908	-0.53	63,515	2.64
10年	167,136	525	-0.31	64,097	2.61
11年	167,627	491	0.29	64,928	2.58
12年	167,583	44	-0.03	65,344	2.57
13年	167,435	148	-0.09	66,060	2.54
14年	167,630	195	0.12	66,918	2.51
15年	168,724	1,094	0.65	67,950	2.48

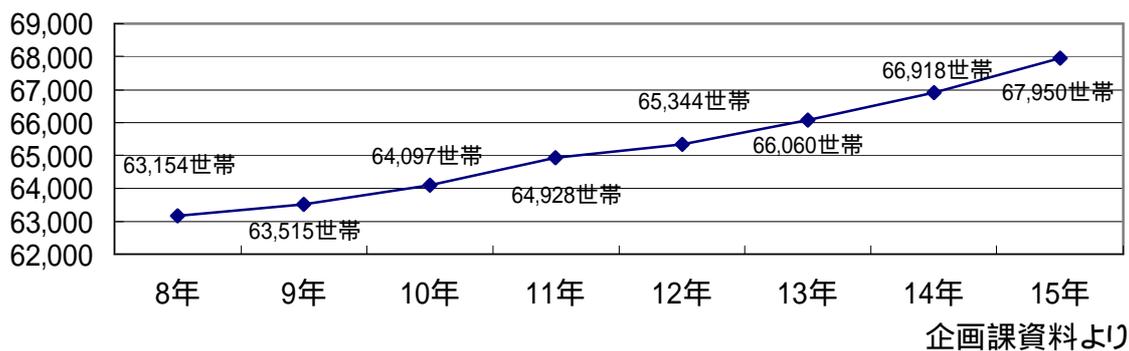
企画課資料より

表1-(1) 総人口の推移(各年10月1日)



企画課資料より

世帯 表1-(2) 世帯数の推移 (各年10月1日)



人口の自然動態と社会動態の推移では、自然動態はマイナス状態が続いています。社会動態は平成10年から平成13年を除き増加に転じています。(表2「自然動態・社会動態の推移」、表3「地域別増減数」参照)

表2 自然動態・社会動態の推移 (単位:人)

平成	自然動態			社会動態			異動人口
	出生者数	死亡者数	増減	転入者数	転出者数	増減	
8年中	1,137	1,347	210	8,898	10,315	1,417	1,627
9年中	1,117	1,304	187	9,653	10,320	667	854
10年中	1,085	1,401	316	9,663	9,535	128	188
11年中	1,190	1,494	301	10,439	9,652	787	486
12年中	1,191	1,411	220	9,912	9,437	505	285
13年中	1,048	1,356	308	8,803	8,986	183	491
14年中	1,156	1,428	272	9,923	8,995	928	656
15年中	1,152	1,460	308	10,133	8,418	1,715	1,407

企画課資料より

表3 地域別増減数 (単位:人)

平成	鎌倉地域			腰越地域			深沢地域			大船地域			玉縄地域		
	自然増減	社会増減	計												
8年中	-288	-105	-393	-112	17	-95	63	-624	-561	39	-499	-460	88	-206	-118
9年中	-234	102	-132	-69	277	208	58	-516	-458	-1	-130	-131	59	-400	-341
10年中	-294	44	-250	-98	-42	-140	70	295	365	-25	54	29	31	-223	-192
11年中	-310	291	-19	-121	208	87	10	-405	-395	23	-29	-6	97	722	819
12年中	-237	245	8	-133	82	-51	55	-36	19	35	-89	-54	60	303	363
13年中	-286	453	167	-94	21	-73	-31	-150	-181	-8	-552	-560	54	162	216
14年中	-201	394	193	-129	-66	-195	16	4	20	-19	359	340	61	237	298
15年中	-195	577	382	-125	330	205	0	381	381	-34	416	382	46	11	57

企画課資料より

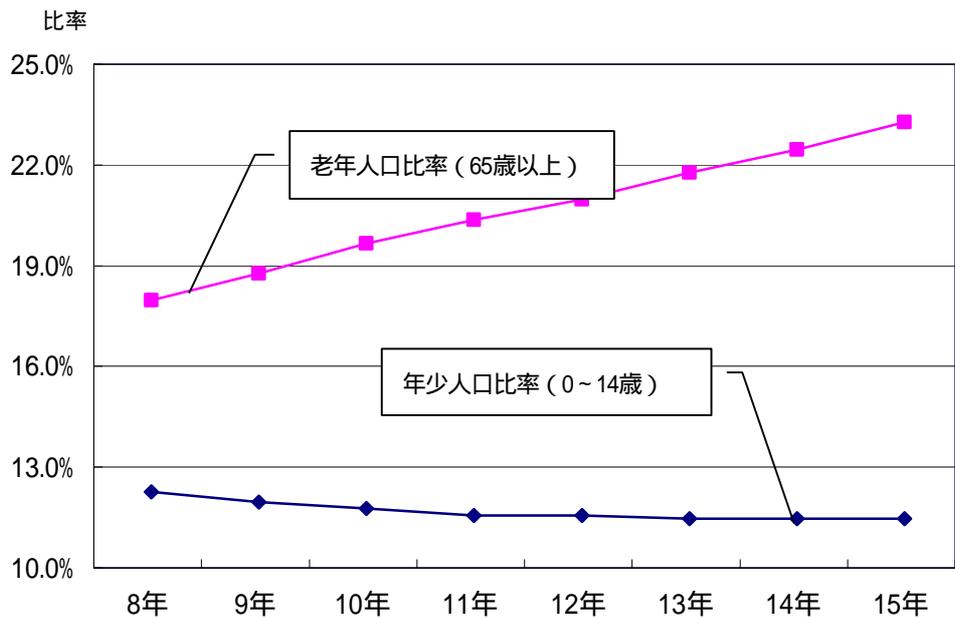
年齢3区分別の人口構成では、65歳以上の老年人口は平成10年の約19%から平成15年には約23%に達し、県内平均を著しく上回っています。また、0歳から14歳の年少人口の割合は、約11%と県下でも低い水準で推移しています。(表4「年齢3区分別人口の推移」参照)

表4 年齢3区分別人口の推移(単位:%・各年1月1日現在)

平成	年少人口比率 0~14歳		生産年齢人口比率 15~64歳		老年人口比率 65歳以上					
	鎌倉市	神奈川県	鎌倉市	神奈川県	鎌倉市			神奈川県		
					合計	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳~)	合計	前期高齢者 (65~74歳)	後期高齢者 (75歳~)
8年	11.9	14.9	70.0	73.9	17.6	10.5	7.1	11.1	7.0	4.1
9年	11.6	14.7	69.4	73.7	18.4	11.0	7.4	11.6	7.3	4.3
10年	11.4	14.5	68.8	73.3	19.3	11.6	7.7	12.2	7.7	4.5
11年	11.2	14.3	68.2	73.0	20.0	12.0	8.0	12.7	8.0	4.7
12年	11.2	14.1	67.7	72.7	20.6	12.3	8.3	13.2	8.3	4.9
13年	11.1	13.9	67.5	72.2	21.4	12.7	8.7	13.9	8.7	5.2
14年	11.1	13.9	66.8	71.5	22.1	12.9	9.2	14.5	9.0	5.5
15年	11.1	13.8	66.0	70.9	22.9	13.2	9.7	15.1	9.3	5.8

企画課資料より

表4-(1) 年少 老年人口比率(各年1月1日)



企画課資料より



少子化については、出生数の減少とともに合計特殊出生率が、全国や神奈川県の数値を下回る「1.01」という状況にあり、全国的な少子化傾向を上回っています。(表5「合計特殊出生率の年次推移」参照)

表5 合計特殊出生率の年次推移

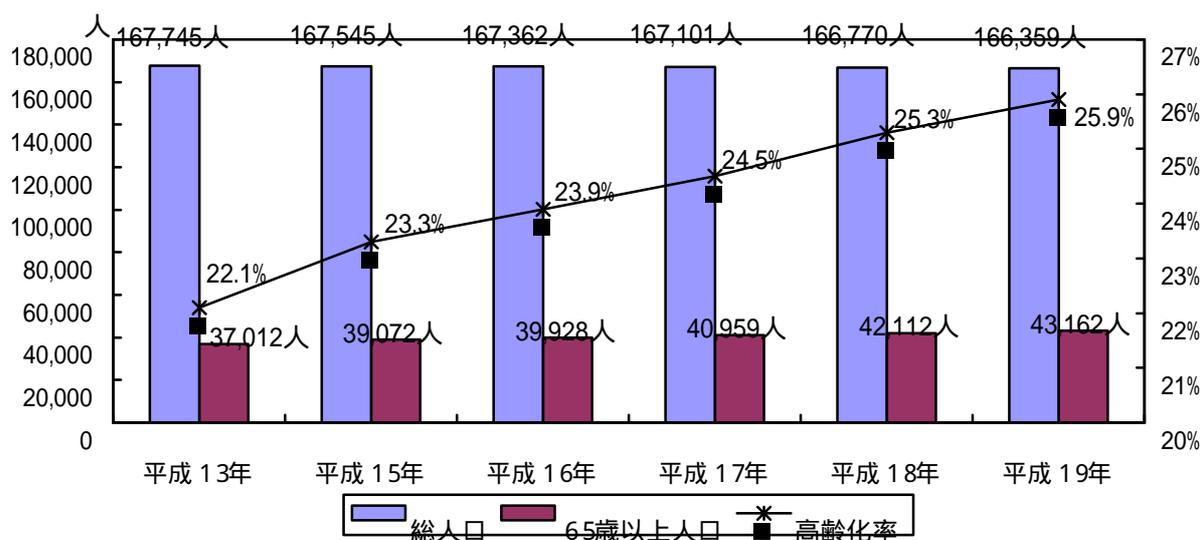
平成	鎌倉市	神奈川県	全国
2年	1.16	1.45	1.54
3年	1.12	1.44	1.53
4年	1.14	1.38	1.50
5年	1.09	1.35	1.46
6年	1.17	1.40	1.50
7年	1.02	1.34	1.42
8年	1.05	1.33	1.43
9年	1.04	1.29	1.39
10年	1.00	1.30	1.38
11年	1.06	1.25	1.34
12年	1.05	1.25	1.36
13年	0.96	1.23	1.33
14年	1.01	1.21	1.32

企画課資料より

【合計特殊出生率】... 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを産むとした場合の平均子ども数。

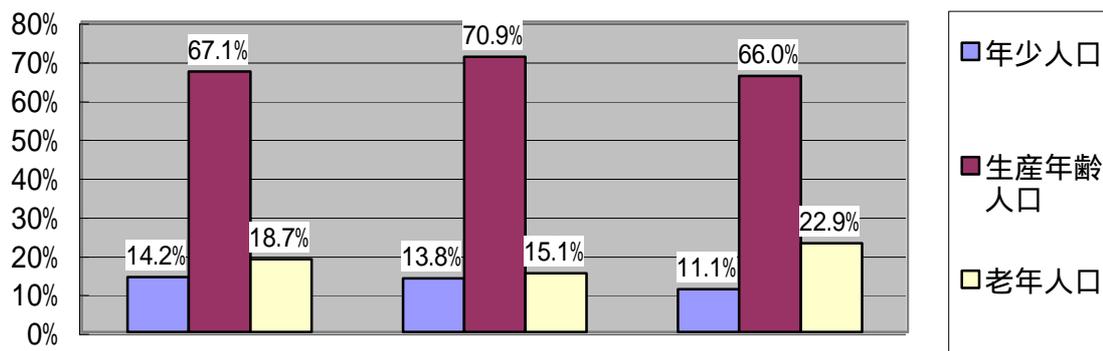
高齢化については、平成18年には25%を超えることが予測され、4人に1人が高齢者という状況にあります。(表6「将来推計人口」参照)

表6 将来推計人口



神奈川県資料より(コーホート要因法)

構成比 【参考】年齢別人口及び構成比の比較 (平成15年1月1日現在)



企画課資料より

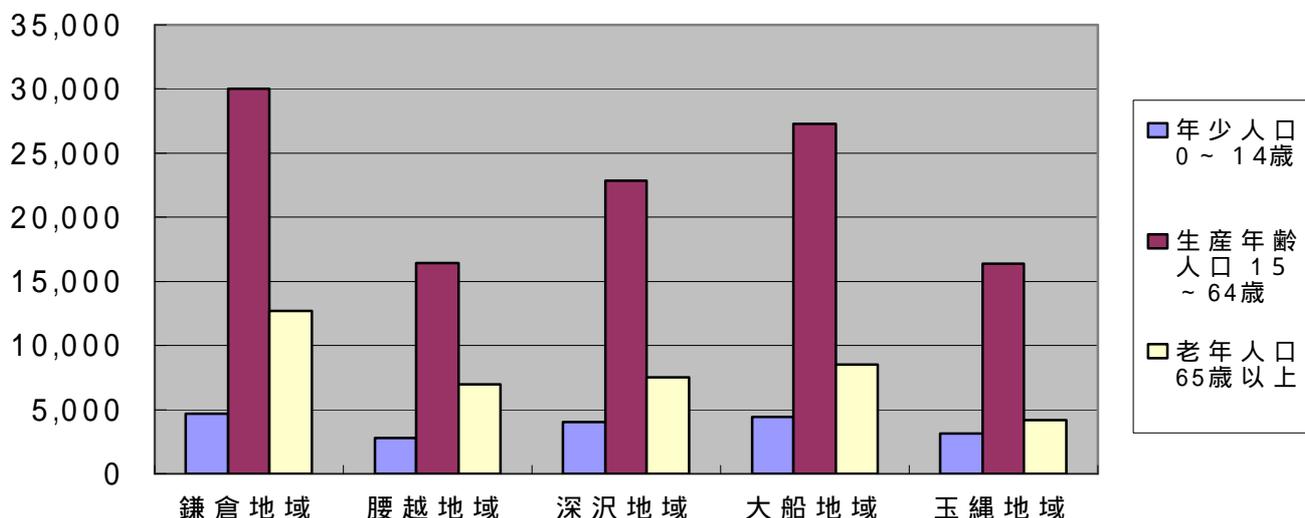
【参考】地域別年齢別の人口構成と構成比 (平成15年12月31日現在)

単位:人

対象	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口			合計 全市構成
			65歳以上	65～74歳	75歳～	
鎌倉地域	4,687	30,025	12,663	6,544	6,119	47,375
地域構成	9.9%	63.4%	26.7%	13.8%	12.9%	27.6%
腰越地域	2,780	16,450	6,991	4,004	2,987	26,221
地域構成	10.6%	62.7%	26.7%	15.3%	11.4%	15.3%
深沢地域	4,043	22,822	7,530	4,525	3,005	34,395
地域構成	11.8%	66.4%	21.9%	13.2%	8.7%	20.0%
大船地域	4,446	27,261	8,526	4,927	3,599	40,233
地域構成	11.1%	67.8%	21.2%	12.2%	9.0%	23.4%
玉縄地域	3,109	16,354	4,164	2,560	1,604	23,627
地域構成	13.2%	69.2%	17.6%	10.8%	6.8%	13.7%
市全体	19,065	112,912	39,874	22,560	17,314	171,851
	11.1%	65.7%	23.2%	13.1%	10.1%	

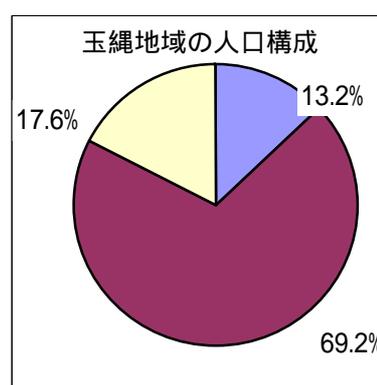
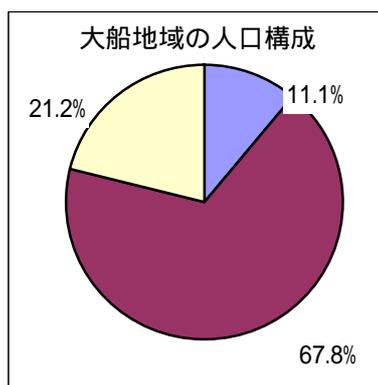
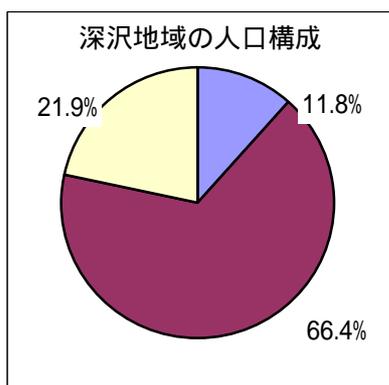
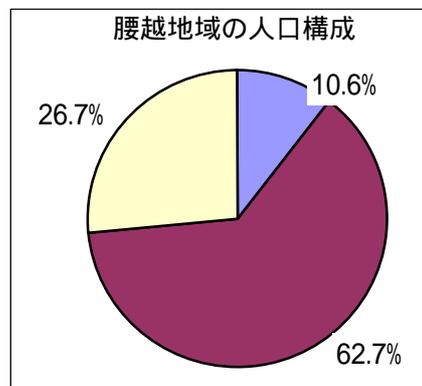
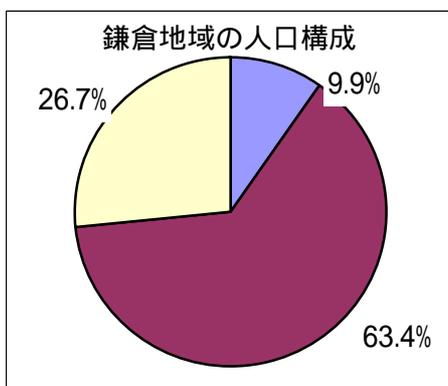
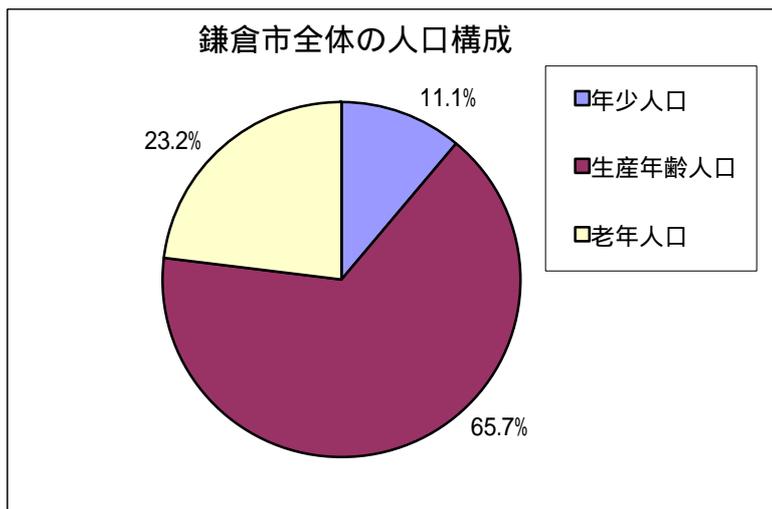
住民基本台帳より

人 【参考】市全体からみた地域別構成 (平成15年12月31日現在)



住民基本台帳より

【参考】 各地域の人口構成（平成15年12月31日現在）



住民基本台帳より

(3) 少子高齢化の現状

ア 高齢者の状況

高齢者の状況は、市全体の高齢化率が平成16年4月（住民基本台帳より）では、23.38%という高い数値を示す中（表7「高齢化率の推移」参照）、地域における高齢化の状況には大きな格差があり、特定の地区では既に40%を超えている状況も見られています。

平成12年度から始まった介護保険制度の認定割合は、年々増加傾向にあり、高齢者の14.8%（平成15年度）が認定を受けている状況です。（表8「要介護認定者数」参照）

介護認定を受けていない約85%の高齢者については、生涯学習・ボランティア・趣味のサークル・老人クラブ活動等への積極的な参加にみられるように、自らの生きがい・健康づくりに取り組んでいる状況にあります。しかし、加齢に伴う気力・体力の低下により、地域との繋がりが疎遠となる、いわゆる「閉じこもり」傾向にある高齢者の存在も多く見受けられる状況にあります。

表7 高齢化率の推移

	平成 12.4.1	平成 13.4.1	平成 14.4.1	平成 15.4.1	平成 16.4.1
総人口 (人)	169,945	169,933	169,714	170,382	171,810
65歳以上 (人)	35,376	36,770	37,881	39,165	40,164
高齢化率 (%)	20.82	21.64	22.32	22.99	23.38

総務課資料より

表8 要介護認定者数(平成16年3月31日現在)

単位:人

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
第1号被保険者	1,016	1,922	915	789	735	587	5,964
第2号被保険者	9	63	30	30	24	19	175
被保険者数	1,025	1,985	945	819	759	606	6,139

高齢者人口に対する第1号被保険者の割合 14.8%

介護保険課資料より

【参考】 居宅サービスの利用者数(平成16年1月給付分)

単位:人

区分	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
居宅サービス 利用人数	593	1,357	642	522	365	257	3,736

【参考】 施設サービスの利用者数(平成16年1月給付分)

単位:人

	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	合計
第1号被保険者	403	372	119	894
第2号被保険者	3	8	1	12
総数	406	380	120	906

介護保険課資料より

また、老人性痴呆患者数の推移（表9「老人性痴呆疾患患者数の推移」参照）については、5年ほどの間に倍増しており、特に60代・70代の患者数の増加が目立っており、構成比としては、70代・80代で全体の83%を占めるという状況にあります。

表9 老人性痴呆疾患患者数の推移

単位：人

平成	総数	50代	60代	70代	80代	90代
10年度	105	1	6	28	61	9
11年度	157	3	12	49	81	12
12年度	156	3	12	53	75	13
13年度	197	3	14	71	96	13
14年度	227	3	18	80	109	17

鎌倉保健福祉事務所資料より

【参考】地域別の高齢者数と一人暮らし高齢者数（高齢者独居台帳より）

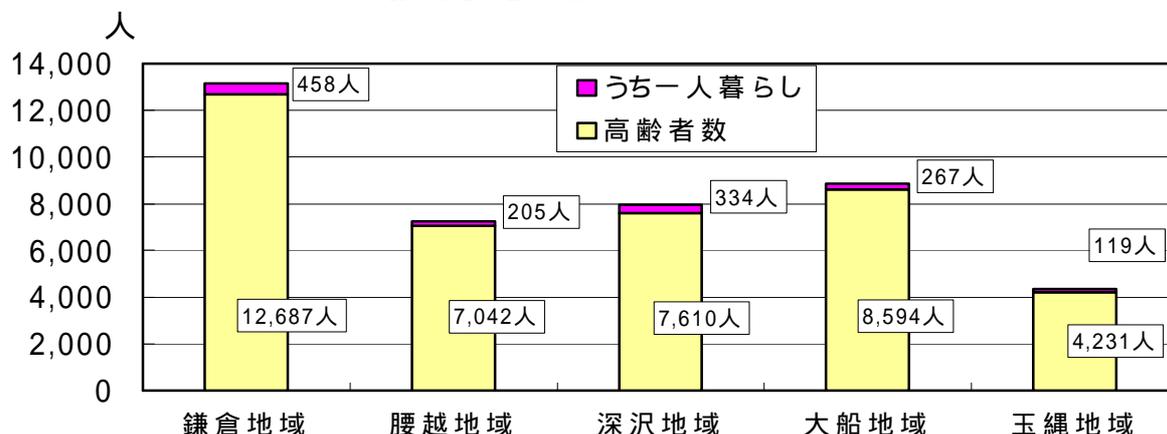
平成16年3月31日現在

単位：人

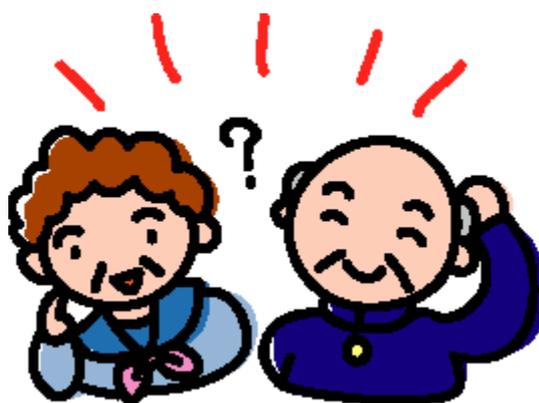
	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	合計
高齢者数	12,687	7,042	7,610	8,594	4,231	40,164
うち一人暮らし	458	205	334	267	119	1,383
地域別の一人暮らし 高齢者数の割合	3.6%	2.9%	4.4%	3.1%	2.8%	3.4%

高齢者福祉課資料より

【参考】地域別の一人暮らし高齢者



高齢者福祉課資料より



イ 子どもの状況

少子化の進行は、大きな特徴のひとつとなっていますが、合計特殊出生率からその状況を見ると、平成13年度では0.96となっており、全国的な少子化傾向を上回る状況にあります。(表5「合計特殊出生率の年次推移」24頁参照)

就学前児童の状況については、3歳以上の保育園・幼稚園への就園状況は、85.2%で、大多数が就園している状況です。3歳未満の就園状況は10.9%となっており、残り89.1%は、在宅・地域などにおいて子育てされている状況です。(表10「保育園児・幼稚園児の状況」参照)

表10 保育園児 幼稚園児の状況

区 分	平成16年4月1日現在				単 位 人
	0歳	1歳	2歳	3歳～5歳	
乳幼児人口	1,177	1,251	1,261	3,867	7,556
保育園在園児数	50	157	194	788	1,189
幼稚園在園児数 (5月1日現在)				2,508	2,508
保育園幼稚園の在園児計	50	157	194	3,296	3,697
年齢別の在園児割合	4.2%	12.5%	15.4%	85.2%	

3歳未満の就園状況は、10.9%

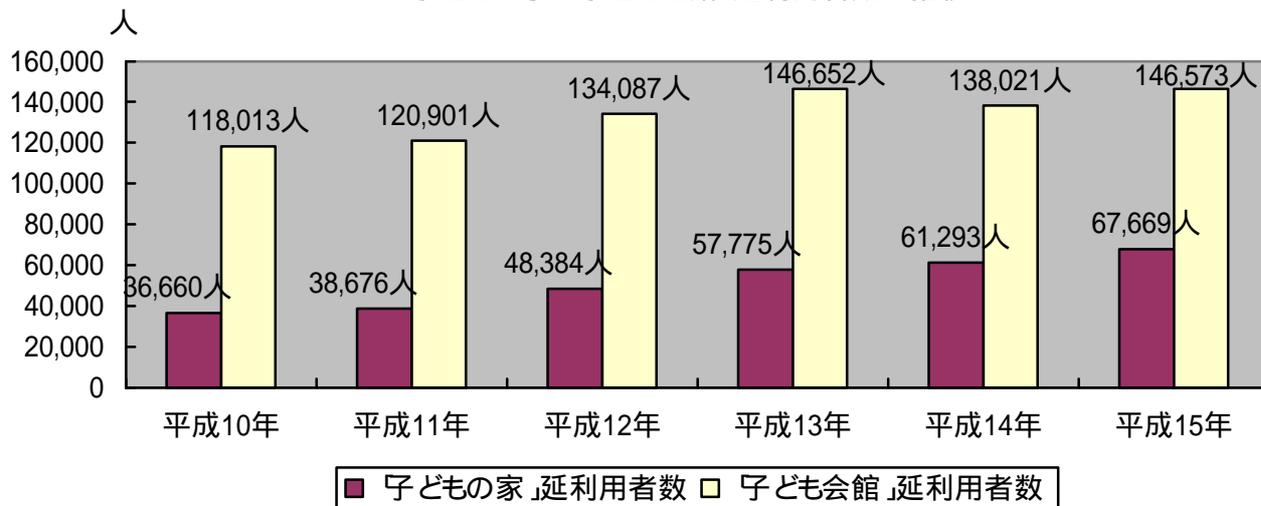
こども局推進担当・こども福祉課資料より

子育て中の親からは、子育て環境の整備として、保育園の延長・一時保育や子どもや親が気軽に集まれる場の確保への期待が高まっています。

児童の状況については、小学校低学年児童を中心とした放課後児童留守家庭健全育成事業が年々活発化している中で、「子どもの家」の利用が増えています。(表11「『子どもの家』『子ども会館』延利用者数の推移」参照)

また、地域における子ども会活動といった自主的活動については、団体数、会員数ともに減少している状況です。

表11 「子どもの家」「子ども会館」延利用者数の推移



青少年課資料より

子育て家庭が抱える育児不安などの軽減・解消、子育て支援を図るため、平成12年に鎌倉子育て支援センターが、平成14年には大船子育て支援センターが開設され、子育てアドバイザーによる相談業務のほか、子育てひろばによる親子の交流が図られています。(表12「子育て支援センターの利用状況」参照)

表12 子育て支援センターの利用状況

平成	鎌倉子育て支援センター (平成12年6月開設)		大船子育て支援センター (平成14年8月開設)	
	利用者数	相談件数	利用者数	相談件数
12年	9,162人	2,652件		
13年	12,723人	4,136件		
14年	10,230人	2,393件	5,629人	723件
15年	10,060人	2,554件	10,524人	2,590件

こども局推進担当資料より

子育て支援情報を一か所に集約した場として平成15年12月に「かまくら子育てメディアスポット」を市庁舎内に開設し、「子育て支援コンシェルジュ」が市民の情報収集のお手伝いをするほか、子育て支援サービスを適切に活用していただくためのアドバイスをしています。また、子育てを支援する団体に対し、ホームページを作成したり、イベント等の情報を即時に掲載するなどの支援を行っています。相談内容としては、育児サークル情報、保育園・幼稚園情報、育児支援団体情報についてが中心になっています。

ウ 障害者の状況

障害者の状況については、高齢社会の進行に伴い中途障害者数が増加傾向にあります。特に、精神障害者については増加傾向にあり、今後も増加していくと推測されます。

また、若年層の障害者の多くは、障害者施設等への入所または通所をしているのが現状です。(表13「養護学校高等部進路別卒業生割合」32頁参照)

障害者個人や当事者団体の活動状況については、おのおの活発に行われていますが、地域との日常的な交流があまりなされていません。

【参考】身体障害者及び知的障害者数の年度別推移



社会福祉課資料より

【参考】身体障害者手帳の交付状況

平成16年4月1日現在 (単位:人)

	視 覚	聴覚・平衡	音声言語	肢体不自由	内部障害	合 計	市人口との割合
1級	110	12	0	498	896	1,516	0.9%
2級	89	76	0	593	1	759	0.4%
3級	34	42	62	477	131	746	0.4%
4級	18	42	27	477	243	807	0.5%
5級	42	1	0	177	0	220	0.1%
6級	26	140	0	70	0	236	0.1%
合計	319	313	89	2,292	1,271	4,284	2.5%
割合	7.4%	7.3%	2.1%	53.5%	29.7%		

社会福祉課資料より

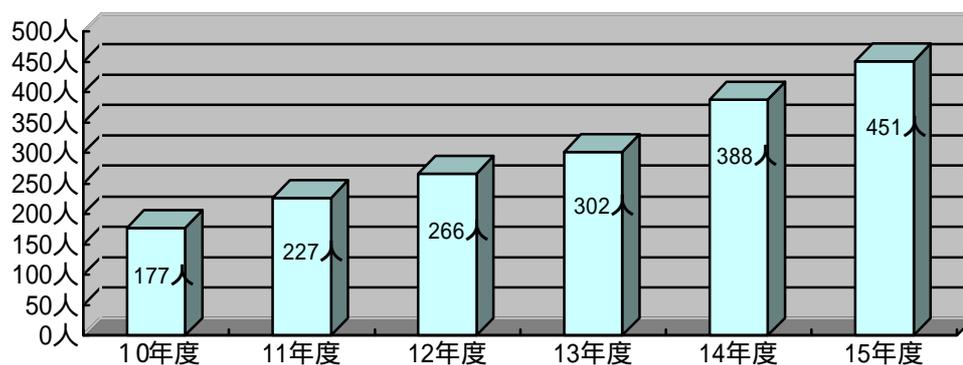
【参考】精神障害者手帳の交付状況

平成16年4月1日現在 (単位:人)

	1級	2級	3級	合計
人数	157	238	56	451

社会福祉課資料より

【参考】精神障害者手帳交付者数の推移



社会福祉課資料より

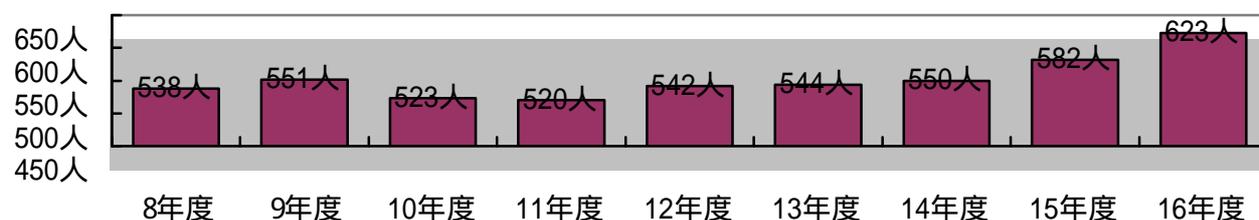
【参考】療育手帳の交付状況

平成16年4月1日現在 (単位:人)

	最重度	重度	中度	軽度	合計
人数	159	167	178	119	623

社会福祉課資料より

【参考】療育手帳交付者数の推移



社会福祉課資料より

【参考】学齢期(6歳～14歳)の療育手帳の交付状況

平成16年4月1日現在(単位:人)

	最重度	重度	中度	軽度	合計
人数	17	17	25	17	76

* 身体障害者との重複を含みます

社会福祉課資料より

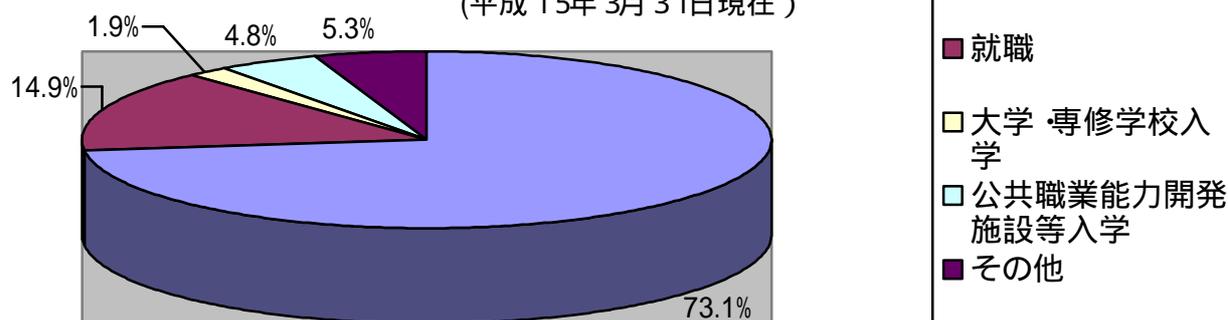
【参考】学齢期(6歳～14歳)の身体障害者手帳の交付状況

平成16年4月1日現在(単位:人)

	視覚	聴覚・平衡	音声言語	肢体不自由	内部障害	合計
1級	0	0	0	13	0	13
2級	0	3	0	9	0	12
3級	0	1	0	1	0	2
4級	0	1	0	2	1	4
5級	1	0	0	0	0	1
6級	0	1	0	1	0	2
合計	1	6	0	26	1	34

社会福祉課資料より

表13 養護学校高等部進路別卒業生割合
(平成15年3月31日現在)



神奈川県資料より



3 地域の福祉資源の現状

(1) 民生委員児童委員の活動

民生委員児童委員は、地域の中で気軽に安心して相談のできる地域福祉のボランティアです。市内には、厚生労働大臣の委嘱を受けた220名が10の地区に分かれて地区民生委員児童委員協議会を組織して活動しています。

ア 地域の相談

生活上の悩み事や心配事の相談に広く応じています。民生委員児童委員には守秘義務があり、相談の秘密は守られます。

イ 情報の提供

社会福祉の制度やサービスを、必要な時に利用できるように、さまざまな支援サービスをご紹介します。

ウ 児童委員の活動

民生委員は、全員が児童委員を兼ねており、児童の保護、福祉に関する援助など児童福祉の向上のための活動をしています。

エ 関係各団体への協力等

日本赤十字社への協力（共同募金運動）社会を明るくする運動への参加、行政事業への協力（高齢者福祉課の敬老祝品配布、人権・男女共同参画課の人権啓発講演会、青少年健全化推進該当キャンペーン）、市社会福祉協議会への協力等さまざまな活動を展開しています。

オ 地域福祉活動の推進

民生委員児童委員の資質の向上を図るため、研修会等へ参加するとともに、地区民生委員児童委員協議会がまとまって研究部会を組織し、地域の福祉活動や問題を研究し、改善に向けて積極的に取り組んでいます。

(2) 主任児童委員の活動

主任児童委員は、児童福祉専任の児童委員で、20名の委員が、10の地区に2名ずつ配置されています。地区の民生委員児童委員と一体となって、児童・妊産婦の福祉に関する相談・援助活動を行うとともに、子ども会館や行政センターを使って親子で遊べる場を設けたり、子育て情報の提供などの活動を行っています。

また、児童相談所・保健福祉事務所などとの連絡調整の窓口となっています。

(3) 市社会福祉協議会の活動

市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とした団体として「社会福祉法」に規定された市町村に設置されている社会福祉法人です。

ア ともしび運動推進委員会の活動

市内の福祉施設、障害者地域作業所、当事者団体、地区社会福祉協議会、住民参加型在宅福祉サービス団体、民生委員児童委員、ボランティア連絡協議会、市社会福祉協議会で委員会を構成しています。

ノーマライゼーションの理念に基き、ともに生きる社会づくりのための活動を実施しています。

毎年12月には、障害者福祉への理解を深めてもらうための街頭宣伝活動として、「障害者の日」キャ

ンペーンを実施しています。

イ 子育て支援グループのネットワーク活動

市内で活動する子育て支援グループ（自主保育、サロン、保育ボランティア等）が、各種事業の企画・運営や相互の情報交換を行う懇談会を組織しています。

ウ 老人福祉センター等の運営（名越やすらぎ・今泉さわやか・玉縄すこやかな各センター及びこゆるぎ荘）

老人福祉センター等の管理・運営のほか、利用者懇話会、サークル代表者会議、体操教室や文化系講座を開催しています。また、地域の高齢者や障害者のために車椅子の貸し出し、紙おむつの支給も行っています。

さらに、近隣の町内会との連携や、子ども会・小学校・中学校・保育園などとの協働によって世代間交流の推進を行っています。地域の拠点として、関係機関とのネットワーク化をめざしています。

エ 一人暮らし高齢者誕生会の開催

市内に住む一人暮らしの高齢者に、隔月でボランティア団体の運営による誕生会を行っています。

オ 手づくりおもちゃふれあい広場の実施

小学生を対象に折り紙やわら細工など、自分の手で創作して遊ぶ喜びを体験してもらうとともに、中学生から大人までのボランティアとの世代間交流も図られています。

カ 共同募金への協力

毎年10月から12月までの期間に街頭募金や自治町内会を通じて募金活動を行う共同募金会鎌倉市会の事務局を行っています。

キ 福祉教育の推進

福祉教育懇談会の開催により、市内学校の教諭を対象に、児童・生徒への福祉教育への理解や、地域の教育力の紹介などを行っています。

また、市内の学校における総合的な学習の授業に地域の当事者やボランティアによる手話体験や点字体験などの支援も行っています。さらに、小学校・中学校・高等学校の総合的な学習の福祉教育に講師派遣や機材の貸し出しを行い、学校への支援活動を行っています。

ク ボランティア活動の推進

ボランティア活動の相談・支援・情報提供や、各種ボランティア講座・研修などを行っています。

ケ ボランティア連絡協議会との連携

ボランティア連絡協議会と共催で事業（研修会等）を実施したり、定例会議へ出席し、連絡協議会との連携を図っています。この協議会は、明るく住みよい地域社会を築いていくため、福祉ニーズに対応し、併せてそれに必要な研修を行い、会員相互の情報交換及び親睦を深めています。（加盟66団体）

コ 各種部会の活動

部会は地区社協部会・自治町内会部会・民生委員部会・施設部会・保護司等部会・団体部会で構成しています。

部会員相互の連携をはかり、共通の事項を研究・協議し、必要な対策を立案し、実施するために部会を開催しています。このうち、地区社協部会では市内9つの地区社会福祉協議会で、地区ボランティアセンターの設置や小地域ネットワーク活動（見守り活動）・子育て、高齢者サロン活動を行っています。

施設部会では、新たに各施設内でのボランティアや実習の受け入れ担当者のネットワーク化を図っています。

団体部会では、当事者団体等相互の情報交換が活発に行われ、横のつながりが強化されつつあります。

サ 福祉啓発活動の実施

年1回、社会福祉の功労者を表彰する鎌倉市社会福祉大会を行っています。また、福祉関係者、団体、ボランティアで企画・運営する鎌倉福祉まつりを開催しています。

シ 福祉総合相談援助

高齢者・障害者・児童・一般の福祉相談に応じ、各種ニーズの需給調整を行っています。また、専門相談として、在宅介護相談（保健師・介護福祉士・社会福祉士等）住宅改造相談（建築士）権利擁護相談（弁護士・社会福祉士等）成年後見相談（弁護士・社会福祉士等）福祉法律相談（弁護士）生活福祉資金相談（社会福祉士等）を行っています。

ス 地域福祉権利擁護事業の実施

福祉サービスの自己選択・自己決定・自己責任への移行にともない、市内に住む高齢者・障害者で、判断能力が不十分な人への福祉サービス利用支援・日常的な金銭管理、書類等預かりの各事業を行っています。

その他、成年後見制度の相談も行っています。

セ 基幹型在宅介護支援センターの運営

市社会福祉協議会は、基幹型在宅介護支援センター（1ヶ所）として市から委託を受け、市内に12ヶ所ある地域型在宅介護支援センターとの連携により、毎月1回連絡会を開催し、要援護高齢者の生活支援について、ケア会議によってよりよい対応方法の協議や、連絡・調整を行っています。

基幹型では、転倒予防教室や気道感染予防教室などの介護予防、在宅介護者教室などの介護者への支援を行っており、さらに、地域のインフォーマルサービスなどの社会資源との連絡調整により、高齢者が安心して住み続けられる地域を目指して活動しています。地域型では、日常生活圏域において、地域の要援護者の把握に努め、地域福祉の推進を目指して活動しています。

ソ 各種福祉用具、祭事用備品等の貸し出し

車椅子、祭事用テント、鉄板、鍋、子ども用の布遊具や布絵本などの貸し出しを行っています。

タ 生活福祉資金の貸し付け

更正資金、生活資金、福祉資金、住宅資金、療養・介護資金、就学資金、災害援護資金、離職者支援資金の貸し付けを行っています。

(4) 地区社会福祉協議会の活動

市内には、9つの地区社会福祉協議会があり、自治町内会、民生委員児童委員、福祉団体、スポーツ団体、ボランティアなどの民間組織等を会員として、各種地域福祉事業を展開しています。（加入世帯数は、平成15年3月末現在の状況です。）

ア 第一地区社会福祉協議会（加入世帯数 4,610世帯）

十二所、浄明寺、二階堂、西御門、雪ノ下、扇ガ谷、小町、御成の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の会食会、車椅子の貸し出し、新入学児童へのお祝い、地区福祉相談、地区ボランティアセンターの運営、地区社協だよりの発行。

イ 大町地区社会福祉協議会（加入世帯数 2,256世帯）

大町、材木座の一部

<主な事業>

敬老会、一人暮らし高齢者の会食会、敬老のお祝い、こどもの日のお祝い、地区住民福祉講座、地区福祉相談、地区ボランティアセンターの運営、地区福祉だよりの発行、見守り活動、子育てサロン活動、災害見舞。

ウ 材木座地区社会福祉協議会（加入世帯数 1,775世帯）

材木座の一部

<主な事業>

敬老のお祝い、車椅子の貸し出し、新入学児童のお祝い、掲示板の設置、地区福祉相談、各種研修会の開催。

エ 第三地区社会福祉協議会（加入世帯数 5,674世帯）

佐助、由比ガ浜、坂ノ下、笹目、長谷、極楽寺、稲村ガ崎、御成の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の会食会、高齢者の誕生会、老人ホームとの交流、車椅子の貸し出し、子育てサロン活動、地区社協だよりの発行、年末慰問、災害見舞、地区福祉相談、地区ボランティアセンターの運営、見守り活動。

オ 腰越地区社会福祉協議会（加入世帯数 3,681世帯）

津西、七里ガ浜、七里ガ浜東、腰越の一部、津の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の配食、敬老のお祝い、車椅子の貸し出し、地区子ども会育成・助成、地区社協だよりの発行、住民福祉講座の開催、災害見舞、結婚・福祉相談、地区ボランティアセンターの運営。

カ 西鎌倉地区社会福祉協議会（加入世帯数 5,084世帯）

西鎌倉、手広、津の一部、腰越の一部、鎌倉山の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の会食・配食、敬老のお祝い、車椅子の貸し出し、ふれあい広場への協力、地区社協だよりの発行、地区住民福祉講座の開催、災害見舞。

キ 深沢地区社会福祉協議会（加入世帯数 8,831世帯）

梶原、寺分、山崎、上町屋、笛田、常盤、鎌倉山の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の会食会・配食、敬老のお祝い、紙おむつの支給、車椅子の貸し出し、子育て支援、地区社協だよりの発行、ボランティア育成、研修会の実施。

ク 大船地区社会福祉協議会（加入世帯数 14,038世帯）

山ノ内、小袋谷、大船、今泉、今泉台、岩瀬、高野、台の一部

<主な事業>

敬老のお祝い、地区福祉講座の開催、研修会の実施、災害見舞、地区社協だよりの発行、地区福祉相談、地区ボランティアセンターの運営、見守り活動。

ケ 玉縄地区社会福祉協議会（加入世帯数 6,691世帯）

岡本、玉縄、植木、城廻、関谷、台の一部

<主な事業>

一人暮らし高齢者の会食会、絵手紙慰問、高齢者サロン活動、紙おむつの支給、敬老のお祝い、車

椅子の貸し出し、子育て支援活動、住民福祉講座の開催、地区社協だよりの発行、地区福祉相談、地区ボランティアセンターの運営。

(5) 自治町内会の活動

自治町内会組織は、平成15年6月1日現在で、178団体あり、全世帯の84.5%にあたる57,076世帯が加入している状況です。行政地域ごとに連合会を組織して連携をとっています。(ただし、22団体については、連合会組織に未加入です。)

自治町内会の活動は、ほとんどが各地区社会福祉協議会の構成員となっており、会費の納入とともに、共同募金、年末助け合い募金等の活動を行っています。

また、独自事業として、自主防災、防犯、地域美化などの活動とともに、地域の老人会、こども会、ボランティア団体等への助成や、「福祉部」を自治町内会に組織して活発に福祉活動を行っているところもあります。

なお、自治町内会未加入世帯については、自治町内会に加入しない世帯と、自治町内会組織がなく加入できない世帯、マンション等の集合住宅で管理組合のみの組織にとどまり、自治町内会未組織による未加入世帯とに分類できます。

(6) 高齢者福祉団体の活動

ア 老人クラブ

各地域に組織されている老人クラブは、昭和39年9月に老人クラブ連合会としてネットワーク化し平成15年6月現在で、103クラブ、4,598人が加入し活動を行っています。各クラブは、独自に地域での美化活動、文化、芸能、趣味、旅行等の活動を行っています。また、老人クラブ連合会活動としては、文化、芸能、スポーツ等の活動とともに、年2回の機関紙を発行することにより、日常的な活動を会員以外にも広く広報しています。さらに、老人クラブ活動の活性化を図り、新たな会員獲得に向けた事業として、ホームページ開設、IT講習会なども積極的に取り入れた活動を展開しています。

イ 老人福祉センター等の所属グループ

市内4ヶ所の老人福祉センターでは、趣味・健康などのサークル活動を積極的に行っています。各サークルともに自主的な運営を行っており、敬老の日等においてサークル活動の発表会等を行い、活動の成果を披露したり、新規会員の獲得に努めています。また、老人いこいの家においても、同様のサークルがあり、ここにおいても活発な活動を行っています。

ウ シルバー人材センター

昭和58年4月に、働く意欲をもつ高齢者のために地域社会と連携を保ちながら、高齢者の生活感の充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域づくりに寄与することを目的に、「社団法人シルバー人材センター鎌倉市高齢者事業団」(現社団法人鎌倉市シルバー人材センター)が組織されました。現在会員数は、平成16年3月末現在で657人おり、会員数、契約金額も年々上昇傾向にあります。職種としては、植木剪定、除草作業、駐車場・駐輪場管理等といったものが多い状況にあります。

(7) 障害者地域作業所連絡会の活動

身体障害者・知的障害者・精神障害者の人々が働く場として、平成16年4月1日現在で地域作業所が

12か所あり、それぞれの作業所が集まり連絡会を組織し、定期的に会合を開催し、連絡調整や情報交換を行っています。

(8) 子ども会、母親クラブ、青少年育成団体の活動

各地域で独自に活動をしている子ども会が、昭和41年4月に「鎌倉市子ども会連合会」(現鎌倉市子ども会育成連絡協議会)を設立し、平成15年6月現在で、12団体、552名が加入しています。子ども会の状況については、年々加盟団体及び会員数ともに減少傾向にあります。これは、子どもの数自体の減少とともに、親が子どもを積極的に子ども会に加入させていない状況にあることが背景として予測されます。

また、ボーイスカウト・ガールスカウト・子ども会育成連絡協議会を中心に「鎌倉市青少年協会」が昭和41年に組織されています。さらに、こども会の親及び子ども会を卒業した児童の親を中心に、昭和49年7月に「鎌倉市母親クラブ連絡会」が組織されましたが、平成13年に解散をし、現在は単位母親クラブが独自に活動している状況にあります。

(9) ボランティア団体の活動

ア 各種ボランティアグループ

(ア) 技術提供ボランティア

理容・美容、朗読・録音、手話・点訳・要約筆記の活動を行っています。

(イ) 労力提供ボランティア

環境、事務、はがき送付などの活動を行っています。

(ウ) 作品製作ボランティア

布おむつ製作、布絵本・布遊具製作、バザー物品の製作などの活動を行っています。

(エ) アトラクションボランティア

マジック、人形劇、ハーモニカ、日本舞踊、マンドリン演奏などの活動を行っています。

(オ) 障害者地域作業所・施設支援ボランティア

障害者地域作業所への支援、施設でのおむつたたみなどの活動を行っています。

(カ) 当事者支援ボランティア

高齢者の話し相手、車椅子ダンスの補助、障害者への支援などの活動を行っています。

(キ) 給食サービスボランティア

高齢者誕生会の食事づくりなどの活動を行っています。

(ク) 子育て支援ボランティア

保育、おもちゃの維持管理などの活動を行っています。

(ケ) 青少年育成ボランティア

青少年のための社会参加活動を行っています。

(コ) スポーツボランティア

障害児者のスポーツ指導などの活動を行っています。

(サ) 国際交流ボランティア

外国人の日本語指導や生活指導などの活動を行っています。

(シ) 青少年ボランティア

障害児者の外出支援、レクリエーション支援などを行っています。

(ス) 地域住民ニーズへの対応

各種緊急ニーズや保育、視覚障害者の誘導などの活動を行っています。

(セ) 個人登録ボランティア

団体に属さず、各種ニーズに対し個人で活動を行っています。例えば、茶道・絵画・声楽の指導、ギターの演奏やハイキングの付き添いなどの活動を行っています。

イ 企業や労働組合のボランティア

企業に勤める人や労働組合の組合員が、余暇を使って、老人ホーム等へのボランティア活動を行っています。

(10) NPOセンターの活動

NPOセンターは、平成10年5月にオープンし、15年度末現在で272団体が登録しています。

「市民活動センター運営会議」が中心となりNPO活動に対する支援・調整を行っています。登録団体相互の連絡調整が課題となっており、今後の充実が望まれるところです。

しかしながら、個々のNPO法人の活動は非常に活発に行われており、地域福祉の分野においても、介護保険制度、支援費制度等の公的サービスも含めた福祉サービス全般において重要な役割を担っており、その重要性がますます高まっています。

(11) ファミリーサポートセンターの活動

鎌倉市ファミリーサポートセンターは、平成14年4月に開設されました。子育てや介護の手助けがほしい依頼会員と手伝いをしたい支援会員による有償の相互援助活動組織です。なお、センターの運営は、NPO法人が市から受託しています。

(12) 子育て支援センターの活動

平成12年6月に「鎌倉子育て支援センター」、平成14年8月に「大船子育て支援センター」がそれぞれ開設されました。子育て支援センターは、子育て家庭が抱える育児不安などの軽減・解消を図るためのアドバイザーによる相談のほか、子育てに関する情報提供や親子の交流を図るための子育てひろばを開設しています。

(13) 子育て支援コンシェルジュの活動

子育て支援情報を一か所に集約した場として平成15年12月に「かまくら子育てメディアスポット」を市庁舎内に開設し、「子育て支援コンシェルジュ」が市民の情報収集のお手伝いをするほか、子育て支援サービスを適切に活用していただくためのアドバイスをしています。また、子育てを支援する団体に対し、ホームページを作成したり、イベント等の情報を即時に掲載するなどの支援を行っています。相談内容としては、育児サークル情報、保育園・幼稚園情報、育児支援団体情報についてが中心になっています。

【コンシェルジュ】

(例) ホテルで宿泊客の要望に応じ劇場の切符や旅行の手配をするサービス係

(14) かまくら地域介護支援機構の活動

平成11年5月、介護保険制度の円滑な運用に寄与することを目的に、利用者である市民、サービス提供事業者、市の三者が協働で取り組む組織として設置され、平成14年10月、より充実した運営を図るためNPO法人となり現在に至っています。この機構には「サービス評価委員会」、「鎌倉ケアマネ連絡会」、「広報委員会」、「苦情相談室」などが設置され、鎌倉市と介護保険制度の円滑な運営のため連携しています。今後、ケアマネジャーとサービス提供事業者との緊密な連携を図る調整機能の強化、ケアマネジャーの質の向上を目指す研修等制度基盤の充実のための事業拡充、利用者である市民とサービス提供事業者間の橋渡しとしての役割を担うことにより利用者とのトラブル等の問題を未然に防止することが求められてきています。

(15) 住民参加型在宅福祉サービス団体の活動

住民が支援を受ける側と提供する側とで、有償によるサービスを提供しており、現在次の3つに分類することができ、それぞれ活発に活動を行っています。

ア 生協運営型（ワークスコレクティブの活動）

在宅福祉分野でホームヘルプサービス活動を開始し、その後、給食・移送・デイサービス・買物にサービスを拡大し、会員の福祉ニーズに対応しています。平成12年から一部のワークスでは、介護保険事業へも参入し、事業者として活動を行っています。主な活動団体として、グループゆう、であい、キッチンかまくら、らら・むーぶ・かまくら、陽だまり、With友、みつばちなどがあります。

イ 小地域相互扶助型（自治町内会単位での有償助け合い活動）

町内会を単位とした有償のたすけあい活動を行っており、主な活動団体として、大平山丸山町内会助け合いの会、今泉台すけっと会、西鎌倉たすけあいの会、七里会などがあります。

ウ 住民有志による相互扶助型（地域の有志（団体）による有償在宅福祉（介護）サービス活動）

地域の有志がグループを設立し、それぞれが活動を独自に展開しています。グループによっては、平成12年から介護保険事業へも参入し、事業者として活動を行っています。

ホームヘルプ関係のグループ8団体は、鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会を、給食サービス関係のグループ8団体は、鎌倉市高齢者給食サービス連絡協議会を組織し、相互の情報交換や連絡調整、研修会などを行うためのネットワーク形成を行い、活動しています。

< 鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会 >

ささえる会、ベルの会、神奈川県ホームヘルプ協会ランチ鎌倉ほーむへるぶ、であい、グループゆう、西鎌倉たすけあいの会、愛コープ鎌倉、和の会

< 鎌倉市高齢者給食サービス連絡協議会 >

ベルの会、エッセン御成、和の会、いづみの会、里の会、エッセン玉縄、エッセンなぎさ、西鎌倉たすけあいの会

(16) 生涯学習推進団体の活動

各生涯学習センターを拠点とした生涯学習関連団体は、年々増加傾向にあり平成16年1月現在で約4,000団体あります。これら団体の活動情報は平成8年度に導入した生涯学習ネットワークシステムでデータを管理し、市民に情報提供してきましたが、平成14年からはインターネットでの対応により、より広範囲な提供ができるようになりました。団体が増加してきていることで、学習施設での定期的な活

働の場の確保が困難な状況にありますが、生きがいつくりや仲間づくり、ボランティア活動、地域活動など生涯学習社会をめざして取り組んでいます。

(17) 人権擁護、男女共同参画の推進活動

市は、平成15年度に、人権施策を推進していくための基本理念や基本的方向を示す「かまくら人権施策推進指針」を作成しました。この指針に基づいて、さまざまな施策に取り組むとともに、庁内の推進組織である「鎌倉市人権施策推進連絡会」や、市民参画による推進組織において、指針に基づく施策の進捗管理や連絡調整を行っていきます。

また、男女共同参画社会の実現をめざした「かまくら21男女共同参画プラン」に基づきさまざまな施策を展開しています。庁内の推進組織である「鎌倉市男女共同参画推進会議」において、調整を行うとともに、市民が自主的に参加し、男女共同参画を進める「鎌倉男女共同参画市民ネットワーク・アンサンブル21」との協働によるプランの着実な推進の取り組みを行ってしています。

(18) 市内の社会福祉施設等

別紙の「鎌倉市のふくし施設“マップ”」を参照